

④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	◆高浜市自治基本条例検証委員会を4回開催し、検証報告書を市長へ提出した。また、「参画・協働・情報共有のガイドライン」を策定した。	H27.5~12	検証報告書・ガイドラインの完成
	◆まちづくり出前授業を実施し、広報たかほま 4/1 号に特集記事を掲載した。	H27.10~ H28.2	まちづくりの担い手育成
	◆まち協の活動について紹介する「まちづくり協議会を知る。」を広報にて連載した。	H27.4~ H28.3	まち協の認知度向上
参画・協働・情報共有の工夫	★自治基本条例の検証については、委員会は傍聴可とし、広報の連載や中間報告書のパブリックコメントを行うなど、市民の参画・情報共有に努めた。 ★まちづくり協議会の新メンバーを対象とした説明会にて、副読本を使い、まちづくりについてわかりやすい説明を心がけた。		
進捗状況	当初に掲げた計画どおり、順調に進めることができた。		
実施内容に対する成果 (事業の自己評価)	☆ 「参画・協働・情報共有のガイドライン」を策定し、職員研修を実施したことにより、職員の意識が変わってきた。また、まちづくり出前授業を新人職員研修と位置づけ、若手職員が地域に出るきっかけとなる仕組みができた。 ☆ 総合防災訓練に中学生が多く参加するなど、子どもが主役の活動が行われるようになってきた。(小6のまちづくり出前授業から中学校へのつながりになる取組み)		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
(1) まちづくり出前授業のさらなる発展 ・出前授業を学習した子どもたちが、中学校でのまちづくりの取組みができたのか検証が必要である。 ・子どもだけではなく、保護者にもまちづくりの大切さを知ってもらふ必要がある。	・高浜カリキュラム化に向けて、小・中学校の体系化した学習方法を考案する。 ・出前授業やまちづくりの実践において、保護者にも参加を呼びかけ、まちづくりの大切さを訴えていく。
(2) 参画・協働・情報共有の意識付けとアクション ・市民がまちづくりに参加しやすい環境を整えるためには、職員がまず「参画・協働・情報共有のガイドライン」に沿った行動をしていく必要がある。	・参画・協働・情報共有の意識付けとして、ガイドラインをテキストにした新人職員研修の一環として内容を伝えていく。また、参画手法などの成功例を集め、全庁的に共有できるようにする。
(3) まちづくり参加へのきっかけ・環境づくり ・まち協を含め、地域団体の担い手不足が懸念されているため、担い手の掘り起こしと若い世代や定年退職を迎える市民が地域デビューできるきっかけとなるような取組みが必要である。	・子どもが主役となる活動を地域と協働で企画・実施する。 ・定年退職を迎える市民を対象に「まちづくり入門講座」を開催するなど、新たな取組みを行う。

⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに(年月)
計画(案)	◆若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」の概要説明を行う。	H28.4
	◆出前授業を全小学校6年生対象に実施し、中学校までの体系的な学習方法の案を作成する。	H29.3
	◆若い世代やシニア世代への聞き取り調査をし、地域デビューのきっかけになるような方法<(例)新人研修、講座、発表会(フォーラム)>を検討、実施する。	H29.3
参画・協働・情報共有の工夫	☆現場へ足を運び、直接市民の声を聞くことでニーズを把握し、事業の推進を図っていく。 ☆広報、フェイスブックに写真を多く掲載し、動画を利用するなどわかりやすく発信していく。	

特記事項